



# 特集1

# 日展報告

六本木の国立美術館で11月4日から開催された日展は27日終了しました。示現会からは錦織重治さん(日展会員)が審査員として参加し、28名が入選しました。初入选は3名です。中西 敦さん(示現会会員)が特選となりました。



授賞理由  
森の中を散策して  
いた折、朝焼けの目  
映い光とそれに歴  
史観も加わった、石  
造りの古城に感動  
し、その気持が練  
りに練った構成と  
現われており、光と  
空気感、そして凛と  
した完成度の高い  
作品と評価されま  
した。



中西 敦  
騎士達へのいざない

中西 敦(会員)  
毎年、構図の段階から試行錯誤、額装した後にさえ往生際悪く筆の上で下ろし、搬入後は吉報を夢見ては落胆の連続でした。所謂「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」、毎回ダメな部分が残って今頃は、構図果たして今回は、構図段階で先生方の反応が今一つ、仕上がりも自信なく、あきらめ気分の中での受賞の報に驚きと涙。それは勝ちに不思議はなく、審査員を務められた錦織先生のご支援、毎回の研究会での成田先生はじめ講師の先生方のこまめなご指導の賜物でした。そして絵を描くことを長年、応援してくれた家族のお蔭です。これは家族への特選です、おめでと。そして皆様に深謝。

入選した皆さんおめでとうございます。  
残念なのは、昨年に引き続き懇親会などが中止になり、喜びを分かち合う機会が持てなかったことです。  
さらに残念なのは、昨年の第8回展で入選された方々のうち、15名の方が落選となりました。  
厳しい審査ではありますが、落選した作品の作者は入選してもおかしくない力を持っています。  
自分の作品をもう一度見直して、題材、構図等昨年の入選作品等を含め過去の作品を吟味し、何が足りなかったのかを考察してみてください。  
また、研究会で指導されたことを再度見直してみましよう。  
次ぎの日展の絵に取り組み始めた、という言葉も聞きました。  
来年度の挑戦に期待しています。(事務局 佐藤祐治)

## 初入选者の言葉



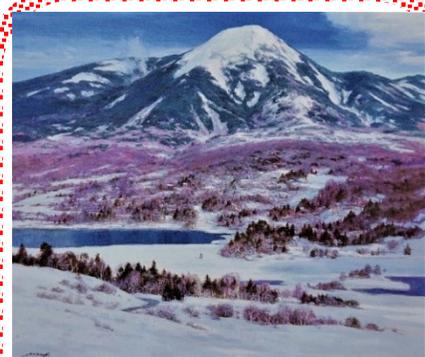
宮森 勝 伊豆の潮風

宮森 勝(会員)  
この度、第九回日展において、入選することが出来ました。大変光栄に思うと共に重責を感じております。是も、リモート研究会において、先生方の的確なご指導をいただき、このこと無しには入選はありえないと思っております。  
今後、今までの作品と入選作品を比較し、何が良かったのかを冷静に反省検討したい。この入選を励みに一層精進し、風景の面白さを追求していく所存です。



加藤 新市 鳥海山

加藤 新市(会友)  
冬、まぢかの秋田県側から見た鳥海山を描きました。四度目の挑戦で初入选させていただき、ありがとうございました。今度もダメかな、と半ばあきらめていたので、まだ信じられない思いです。  
リモート研究会での、諸先生方の適切なご指導は、私の絵と心に新風が吹き込まれる思いがしました。どの先生方からも、同じ箇所を指摘され、本物の画家のすごさを改めて感じました。  
この入選を励みに来年に向け、入選できるように頑張りたいと思います。



錦織重治  
第9回日展・審査員

今回の審査は、コロナ禍の閉塞感、被災、介護、闘病等々耐え抜き描きあげられた作品でありながらも残念な結果となりました。やはり他流試合の場であることの厳しさを痛感しました。  
会期中、何度も会場に通い自分自身の絵もさることながら我々仲間の作品に対する課題は何かを考えました。皆さん全員に共通した言葉はみつかりませんでしたが、個々人の作品に対する課題は少し感じることができた気がします。これを今後のリモート研究会等の機会にお伝えできればと思っています。  
本音で一言、入選できなかった方、入選された方、各々が研鑽の機会である場と捉え、自ら課題を引き出してほしかったということです。  
錦織重治



折野 安弘 晩秋の午後 2022

折野 安弘(会員)  
ある日、支部長から「折野君、日展に出してみんで」といわれ、無謀なことだとは思ったけど挑戦することにしました。  
諸先生方に指導を受けながら、第五回日展に出品しました。その後も示現会の研究会に参加したり、何回もリモートで指導を受けながら作品を制作してきました。また、自分なりに考え、試行錯誤しながらやっと、第九回日展に入選することが出来ました。  
これからもよい作品が描けるよう頑張りたいと思います。

## 特集2

示現会には15支部があり、地域での活動を牽引しています。「支部があつての示現会」とよく言われます。まさにその通りで特に新規の応募者は支部の公募展が主になっています。巡回展はもとより、研究会、支部展、公募展、また会の懇親を深める催し等様々な取り組みを行っています。特にこの数年のコロナ禍における活動は非常に厳しいものがあり、支部長をはじめとする支部役員の方々は大変だったと思います。今回、久留米支部で長年にわたり支部長を務められた江口さんから退任の言葉をいただきました。紹介いたします。なお新支部長は2月の理事会にて承認されます。支部からは候補が上ってきておりますので決まりましたら紹介いたします。



久留米支部  
江口 登

支部長退任にあたって  
この度2022年12月末をもって久留米支部長を退任いたしました。2016年より6年間、諸先生方のご指導を頂き誠にありがとうございました。振り返りますと3年前より地球規模の新型コロナ感染拡大は人類への警告とも言われ、あらゆる部門に影響を及ぼし、今ではいろんな面で人間の生き方まで変わりました。  
私たちは示現会展で「美」を発信することによって生きがいでもあるのに、発表の場ができない時期もありました。  
そして今後も美術活動をしながら新しい仲間づくりが必要になってきています。新支部長には今後皆様方の変わりぬご高配とご指導をよろしくお願ひいたします。

年末年始の示現会事務所は12月29日より1月3日まで休みになります

